

7月園だより



令和5年6月末日
まこまないみどりまち保育園
TEL 582-1521
FAX 582-1501

「命の尊さと成長を大切にした保育」

地域や、職種によってはまだコロナが流行しているようですが、よさこいや札幌祭り等コロナ前の活気が戻りつつあり、ここ数年感じていた心のモヤモヤが、少しずつ晴れてきている気がしています。

「雲の上はいつも晴れ」

～青空をいつも心に描いていれば、心明るくなって希望も湧いて来るという意味のことわざ～
先日研修会があり徳島に行かせていただきました。飛行機に乗るときは曇り空でしたが、離陸し雲を抜けると綺麗な青空が広がりました。飛行機に乗るといつも見る光景ですが、コロナ禍を抜けた今の世の中と重なりとてもすっきりとした気分になりました。

一方、他県の保育園では、給食を誤嚥し命を落としてしまう幼い子の事故等、保育園で起きた悲しいニュースが多く、大変心を痛めています。

このような事故を耳にするたび、なぜ、防ぐことが出来なかったのか...と考えてしまいます。当園では、平成28年に政府（内閣府、文部科学省、厚生労働省）よりご案内のありました「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」に基づき、当園の保育環境に合わせた独自のマニュアルを作成し安全な保育を心掛けています。

そして、保育の中で怪我に繋がりそうな場面がある場合は「ヒヤリハットノート」に記入し全職員で共有をし、会議等で再発防止策を話し合いマニュアルに落とし込んでおります。

政府のガイドラインには、月齢に応じた食べさせ方及び、気管や食道、嚥下のしくみ等とても細かく書かれており、打ち合わせ等で一人一人に合った食べさせ方を話し合っています。

給食調理についても、繊維などがある食べ物は1cmぐらいに切るなどガイドラインの細かい指示通り調理をして提供をしています。（離乳食については、嚥下機能に合わせて食べ物の形態を変えています）食事量については、一人一人の食べられる量に合わせて、あらかじめ給食を減らし一定量を食べられるようにするなど配慮をし、無理に食べるような指導はしておりません。

このようにガイドラインに基づき給食提供をする事で安全は保たれるものの、咀嚼力がついていくように食事指導をする事の困難さがあり、常に栄養士と相談をしながら、子どもたちの咀嚼力についても取り組んでおります。

これから、園では水遊びなどの夏の遊びが始まります。

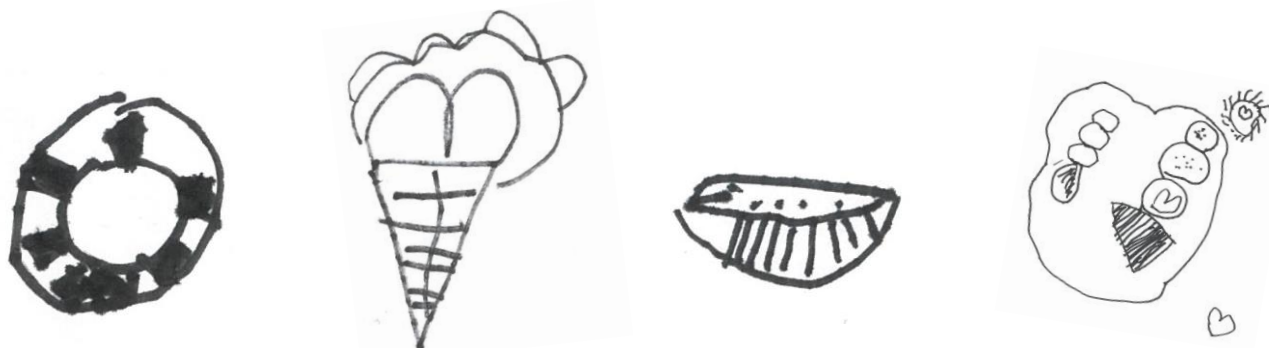
当園では、安全に水遊びが出来る様、毎年、園内で水遊び時の注意事項（監視を必ず付けるなど）及び、万が一の時の救助・職員配置について、更にAED講習をしっかりと行っております。

子どもたちが笑顔で水遊びを楽しむ姿が、とても楽しみです。

又、夏は熱中症にも気を付け、子どもたちの変化に直ぐ気が付くよう、対応をしていきます。気温の上昇と共に、熱を出してしまう子が増えると思いますが、水分補給及び涼しい環境にしても解熱しない場合はご連絡をしますので、お迎えをお願い致します。改善しない場合は、通院が必要になる事もありますのでよろしくお願い致します。

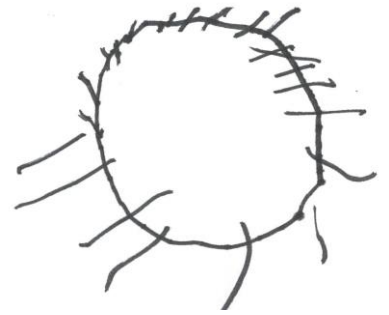
安全と成長を兼ねた保育を日々摸索し、子どもたちにとって保育園が良い環境であるように職員で話し合い、これからも向上していきたいと思っております。何かお気づきの事がありましたら、気軽にお伝えて下さい。

園長 熊澤 千夏



<7月の行事予定>

- 1日(土) ももの会
- 3日(月) 園医検診
- 11日(火) お楽しみ会
- 13日(木) 園外保育(3~5歳児)
- 18日(火) 避難訓練(不審者侵入)
- 14日(金) 28日(金) 布団、コットカバー洗濯日



~体育教室~

- ひまわりぐみ • 14日(金) • 28日(金)
- ももぐみ • 7日(金) • 21日(金)

- 7月24日(月)~8月3日(木) 大谷短期大学より実習生が1名入ります。
- 7月24日(月)~8月7日(月) せいとく介護こども福祉専門学校より実習生が1名入ります。

<ももの会について>

- 7月1日(土)にももぐみの行事があります。ゲーム等のお楽しみや、夕方に軽食を食べる予定です。

<園からのお願い>

• 年間行事予定でもお知らせしていますが、お盆休みの協力日は8月12日(土)・14日(月)・15日(火)の3日間となっています。お仕事以外の方はお休みのご協力をよろしくお願い致します。また、夏休み期間中(7・8月中)にお休みの予定をしている方は給食の関係がありますので、7月中旬から保育士が出席の確認をさせていただきます。

<6月の意見・要望・苦情>

意見・要望 1件
苦情 0件

最近ニュースで保育士が食べ物を押し込むニュースを目にするが、みどりまち保育園では、食べ残しに対してはどのように対応しているのか、保育士によって違うのか?という意見がありました。



当園では、全保育士で嫌な物を子どもの口には入れない、また、押し込むこともしていません。食べきる経験が出来るように苦手な物の把握をし、量を減らして提供する等工夫をし関わっています。体を作るために色々な食材をおいしく食べる事ができるのも大切な事です。給食室の栄養士が各部屋をまわり様々な食事指導をしています。そのような中で意識して主体的に食べる意欲に繋げていく事に力を入れています。



～夏にかかりやすい病気～

<咽頭結膜熱（プール熱・アデノウイルス）>

保護者記入の登園届：必要○

急な発熱（38～40℃）、喉の腫れや痛みがあり、目やにや充血などの結膜炎の症状が伴う場合があります。主要症状が消失した後、2日を経過すると登園できます。

結膜炎の症状だけでも、原因がアデノウイルスの場合は登園届が必要です。

<手足口病>

保護者記入の登園届：必要無し×

手、足、口に（子どもの場合は肘、膝、お尻にも）水疱性の発疹ができる夏風邪の一種です。無菌性髄膜炎を合併することがあり、発熱や、頭痛、下痢、嘔吐を伴う事もあります。熱がなく、食欲があれば登園可能な病気ですが、あまり状態が良くない場合はお休みしてしっかり治しましょう。

<溶連菌感染症>

保護者記入の登園届：必要無し×

発熱、咳、喉の痛みがあります。又、舌の表面にブツブツの赤み（いちご舌）も見られます。抗生剤投与開始後1～2日経過し、主要症状が消失した後登園できます。抗生剤が処方されますが、園では基本的にはお薬をお預かりし、投与することはできませんので、1日2回の処方にしてもらうようお願いいたします。また、1日3回の処方の場合はご家庭で時間をずらすなどしてください。

<ヘルパンギーナ>

保護者記入の登園届：必要無し×

高熱・喉の痛みなどの症状が見られます。咽頭に赤い粘膜疹がみられ、次に水疱（水ぶくれ）となり間もなく潰瘍となります。

高熱が数日続き、熱性けいれんや無菌性髄膜炎を合併することがあります。熱がなく、食欲があれば登園可能な病気ですが、あまり状態が良くない場合はお休みをしてしっかり治しましょう。

<伝染性軟属腫（水いぼ）>

保護者記入の登園届：必要無し×

直径1～3mm程度の、真ん中が少しへこんだ光沢のある白色や透明のいぼが、脇の下やわき腹、首、肘、膝などにできます。引っ掻いたり、潰れたりすると中のウイルスが飛び出して全身に広がったり、肌と肌が接触したり、タオルを共有する事によりうつってしまいます。接触感染を防ぐために絆創膏やガーゼなどで幹部を被う配慮が必要です。

※園では、感染拡大防止の為に、水いぼがある又は、水いぼの疑いのあるお子さんは、他のお子さんと別のプールに入るようにしています。（治療後は他のお子さんと同じプールになります。）

<とびひ>

保護者記入の登園届：必要無し×

水疱や黄褐色のかさぶたができ、皮が破れてつゆがあちこちにつくことで広がります。皮疹が乾燥しているか、湿潤部位を被覆できる程度であれば登園できます。

転んだ時の傷や、ひっかき傷からとびひになることもあるので、こまめに爪を切るようお願いいたします。

（厚生労働省 感染症対策ガイドラインより）

*感染症に罹患した子どもが登園する際には

- ①子どもの健康（全身）状態が保育所での集団に適應できる状態まで回復している事
- ②保育所内での感染症の集団発生や流行につながらない事を確認する

※集団生活の中で感染拡大を防ぎ、健康に過ごすためにも、皆様のご配慮とご協力をよろしくお願い致します。

早めの熱中症予防！症状が現れたら速やかな処置を！

〈子どもの熱中症予防のポイント〉

- 気温と湿度をこまめにチェック。
- 屋内で熱中症になることもあるため、エアコンや扇風機を適切に使う。
- のどの渇きを感じなくても、こまめに水分補給をする。
- 通気性のいい服装で、帽子など日よけ対策をする。
- 無理をせず、適度に休息をする。
- 十分な睡眠と食事を取る。
- 短時間ではあっても絶対に車内を子どもだけにしない。
- 降ろし忘れも注意する。

子どもは体温調節機能が十分に発達していないため、体に熱がこもり体温が上昇しやすくなります。また、身長が低い子どもは、地表面からの熱の影響を受けやすく、大人よりも高温の環境下にさらされています。子ども自身体調の変化に気付かない事や、伝えられないこともあるため、周囲の大人が顔色や汗の量などに気を配る必要があります。



〈熱中症になってしまった場合の応急処置〉

- 呼びかけに答えない場合は、すぐに救急車を呼ぶ。
- 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる。
- 首の周り、脇の下、太ももの付け根など太い血管の部分を冷やす。
- 水分や塩分を補給する。
- 病院へ行く？救急車を呼ぶ？迷ったら#7119へ

熱中症は急速に進行して重症化しますので、早めに異常に気づき、応急処置を行うことが大切です。